

檜野の五輪塔復元

八月四日 佐伯史談会

往時檜野は高城を経て堅田と結ぶ要所であり、佐伯氏と深いかかわりのある所であったと思われるが、佐伯氏に関する文献は当地方には皆無と言ってもよい。

しかし、佐伯氏との深いかかわりを語る立派な石造物があちこちに残されている。中でも古庵跡（永福山安養寺跡）には、佐伯地方で最もすぐれた五輪塔が竹や雑草におおわれ草深く埋もれている。

この五輪塔は鎌倉末期から南北朝時代のものといわれる。佐伯史談会は、地区の協力を請うて、復元を計画した。現在佐伯短歌会長であり、史談会員でもある自見吉之助先生を通して、地区の方々の御協力をお願いしたところ、快諾下さって今日の作業となった。

八月四日、この日も焼けつくような太陽が輝いた。有難いことに地区の方々がすでに竹を切り、雑草を払って下さった。軸丸氏の読経後、作業は順調に進んだ。傾いているものは起こし、散乱しているものができる

だけ復元した。種子を美しく彫ったものもある。高さ一四六mある二基は石質がよいため、八百余年の歳月を経ながら、損傷が極めて少ない。後の竹藪の中には、まだ古塔の一部が散乱している。この竹藪の中にはなお多くの古塔が埋没していることだろう。

暑さの厳しい日であったが、整然と修復された五輪塔に何か清らかなさを感じる。

塔の主よ、安らかに眠ってほしい。

檜野の方々、大変お世話になりました。

(塩月)



作業前挨拶する高木会長（自見氏宅）

雑草に埋れみるかげも
ない古庵跡五輪塔



炎天のもと汗を流して
作業



整備された
古庵跡五輪塔

